



— 記者発表資料 —

**速報** 10/31(土)に圏央道(桶川北本IC~白岡菖蒲IC)が開通

久喜白岡JCT~海老名JCTが約60分短縮(約130分→67分)  
東北と湘南がより近くに!

東名では、圏央道外側で2,200台/日増加しているにもかかわらず  
内側で4,700台/日減(4%減) 都心を通過する交通の減少に期待!

●開通後の交通量

<圏央道> 圏央道の利便性が一段と向上

東北道~関越道 (桶川加納IC~白岡菖蒲IC) : 約34,700台/日 ※1

関越道~中央道 (青梅IC~入間IC) : 約56,700台/日 (16%増) ※2

中央道~東名高速 (相模原愛川IC~相模原IC) : 約46,000台/日 (13%増) ※2

<放射道路> 圏央道内側の東名高速では交通量が減少

東名高速 (海老名JCT~横浜町田IC) : 約4,700台/日減少 (4%減) ※2

※1 平成27年11月1日(日)~11月7日(土)の日交通量の平均値、※2 平成27年10月1日(木)~10月30(金)の日交通量の平均値と比較

これから発現していくストック効果を隨時発表していきます。

環状道路の4つの役割 ← 交通の流れをスムーズに!

1 都心を通過するだけのクルマを減らして渋滞緩和へ。



通過交通の都心流入を抑制します。

2 郊外からいろいろなルートで都心へ。渋滞も緩和へ。



郊外から都心への交通を分散導入します。

3 地域間の移動をスムーズに。



周辺地域の移動が直接できます。

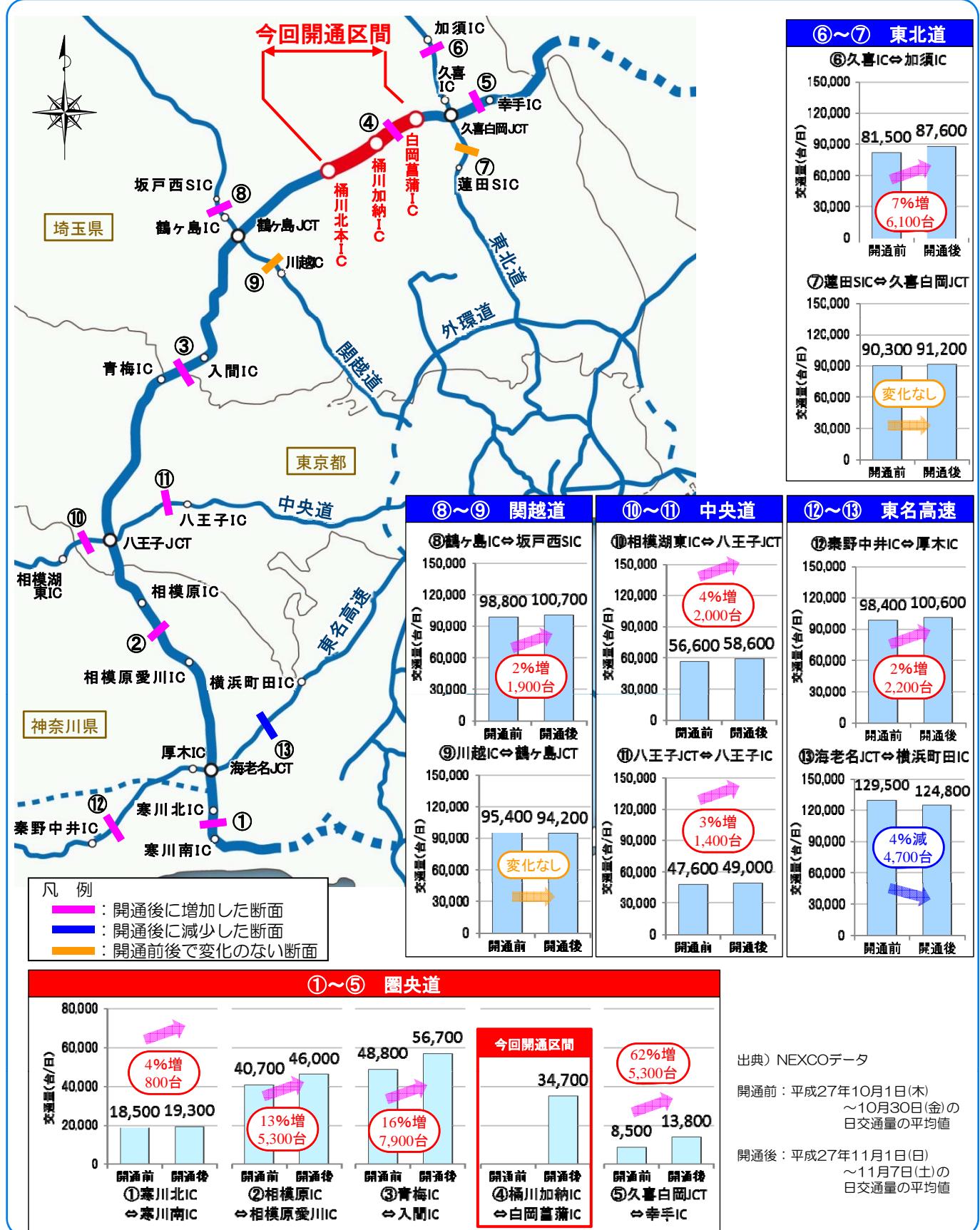
4 災害時などの代替えの道、確保へ。



災害や事故などで一部区間の不通があつても速やかに移動できます。

# 効果① 開通直後の交通状況

- 圏央道内側の交通が最大4,700台減少（東名高速）
- 今回開通区間（桶川加納IC～白岡菖蒲IC）の日交通量は、平均34,700台/日
- 東名高速から東北道までつながり、圏央道は、関越道～中央道（青梅IC～入間IC）、中央道～東名高速（相模原愛川IC～相模原IC）の交通量が約1～2割増加



## 効果② 東北と湘南がより近くに！

- 圏央道の開通により、久喜白岡JCTから海老名JCTへの所要時間が約60分短縮  
(約130分⇒67分)



久喜白岡 JCT～ 海老名JCT まで	都心経由 ルート	東北道→首都高速 →東名高速	約130分
	開通後 ルート	圏央道	67分

所要時間：

都心経由ルート：H22センサス(混雑時旅行速度)による最短時間ルートの所要時間

圏央道開通後ルート：NEXCOデータによる朝のピーク時(7時～9時)平均値

期間は平成27年11月2日(月)～11月6日(金)の平日

約60分  
短縮

## 圈央道開通区間概要

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約241kmが開通しています。

## ●今回開通区間の概要

路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開通区間：桶川北本IC（埼玉県桶川市川田谷）～白岡菖蒲IC（埼玉県久喜市菖蒲町上大崎）

○開通日：平成27年10月31日（土）15時

○延長：10.8km

○開通IC：桶川加納IC

○車線数：4車線

○開通PA：菖蒲PA

【圏央道 桶川北本IC～白岡菖蒲IC間の開通後1週間の交通量】

日付	日別交通量 ※1		備考	天候 ※2
	おかげわきたもと 桶川北本IC～桶川加納IC間	おかげわかのう 桶川加納IC～白岡菖蒲IC間		
10月31日(土)	18, 300台	19, 100台	15時開通(9時間交通量)  24時間交通量	曇
11月1日(日)	37, 100台	38, 600台		晴のち曇
11月2日(月)	30, 100台	30, 400台		雨のち曇
11月3日(祝)	36, 200台	37, 000台		晴
11月4日(水)	32, 600台	33, 100台		晴
11月5日(木)	33, 600台	33, 600台		晴のち曇
11月6日(金)	35, 700台	36, 000台		晴
11月7日(土)	33, 800台	34, 400台		曇

\*1 交通量はETC車以外も含む全車種合計の本線交通量（トラフィックカウンター[道路に備え付けられている交通量（概数）の自動計測装置]による速報値）

※2 天候は埼玉県熊谷市の昼の天気概況を記載（気象庁ホームページより）

## ■今回開通区間の位置図

